

## 令和4年度 岡山県立矢掛高等学校 第2回学校運営協議会（議事要点）

日時 令和4年11月14日（月）

14:05～16:50

場所 矢掛高等学校 会議室

### 1 開 会

#### ・会長挨拶

昨日は宿場祭があったが、大名行列の時のみ晴れてよかった。矢掛高校の生徒も参加しており、しっかりと活動していた。また、学校関係でコロナ感染者も増加しており、学校も大変であろう。本日は2回目の会議である。遠慮なく意見を出してほしい。

#### ・校長挨拶

中山間地域にある本校は、地域と連携することが必須であり、地域における存在意義を地域の人たちと共有することが大切である。本日は学校の魅力化の方向性を説明する。具現化したい事項もあるので、さまざまな御意見を頂きながら、共通理解を図っていきたい。

### 2 説 明・協 議

#### (1) 令和4年度学校自己評価（中間）の説明

(教務課) 地域で活躍する人材育成を目標として、他課と協力して様々な活動を設定しているところである。一人1台端末については、教科等でよく活用されている。本年度の1年生から新教育課程となり、来年度のシラバスもほぼ完成をみている。

(生徒課) 10年後、20年後を見据えたセルフマネジメント力の育成を目指している。重点取組は全教員による生徒への声掛け指導である。指導後に改善される生徒とそうでない生徒が2極化している傾向にあるが、あきらめず全教員で声掛けをしていきたい。また、何事にもチャレンジすることを推奨しサポートしている。メディア・アート部によるインスタグラムの立上げ、選挙管理委員会により選挙方法の改革を関係生徒が行った。

(進路課) 学校経営目標にもある、自立・探究・協働する力を進路面で育成している。重点取組は生徒面談である。3年生については10数回にわたる面談を実施している。面談を通して、生徒が進むべき進路を見つけ、その進路に向けての具体的な準備を明確にしている。学習時間の確保が不十分な生徒もいるので、面談時に指導している。また、町の支援を受けて講演会などを実施している。進路意識の向上に大変役立っている。

(ESD課) ボランティア等で積極的に地域に出ることを通して、自己の進路等を明確にさせている。事前・事後指導に重点を置いている。事前指導では、活動の目的や意義を

伝え、本人なりの目標を持たせて参加させている。事後にはレポートを書かせており、自分の思いを記述するよう指導しているが、生徒は難しそうである。これが今後の課題である。

(2) 質疑・応答（「▶」は矢掛高校の説明）

[委員] 新型コロナ感染状況が生徒の進路に与える影響はあるか。

[高校] 昨年は県外志望が大変少なかった。本年度は県外志望も増加し、以前の状態に戻っている。就職はほとんどが地元志向で、以前とほぼ変化はない。また、看護系志望者数も、特に変化はなかった。

[委員] 学習時間の確保が難しい生徒がいるとのことである。何か手立てを考えているか。

[高校] 教科・学年・担任と連携して、面談等を通して具体的な指示を与えている。また、教科による適度な負荷も依頼し、教員で共通理解を図りながら指導している。

[委員] 家庭での学習時間が少ないことは、中学生も同じである。予習を「準備学習」と言い換え、授業を受けることのできる準備をするように指導している。

[委員] 高2年生校までは危機感を持ちにくく、危機感を持たすことが難しい。

[委員] 丁寧な複数回の面接のおかげで、自分の進むべき進路を見つけることができ、進路決定後も学習時間が増加した。いろんな先生と話をし、指導を受けることがありがたい。

[委員] 中間自己評価で C 評価の項目が、生徒課と 1 学年の二項目ある。説明をお願いしたい。

▶服装についてのセルフマネジメントが不十分であるので C 評価とした。今後も継続指導をしていく。

▶ボランティアの参加人数が例年に比べて若干少なかったのも、C 評価としている。今年度の入学生は、コロナ感染対策で多くの行事等が中止になった学年である。地域活動に参加する生徒が少なかったのも、個別に声掛けするよう指導していく。

[委員] スクールアイデンティティを育てることが大切である。この学校の価値は何か。

▶少人数編成で、全教員が当たること、地域に出ているフィールドが既にあること。加えて少人数教育で伸ばし、伸び率が大きいということである。

▶いい意味で田舎なので、地域教育力もある。

(3) 令和 4 年度学校自己評価アンケートについて

12 月に学校自己評価アンケートを実施する。

(4) 今後の教育活動について（矢掛高校魅力化の考え方）

※高月校長から矢掛高校魅力化の考え方について説明した後、次のような御意見を頂いた。

[委員] 子どもを連れて移住する若者が増えている。小中高 12 年間の切れ間のない教育

を目指して、矢掛高校が実施している校内外研修、県外視察等を、研究過程でもいいので、町民に向けて発信してほしい。

▶来年1月に飛騨市に視察に行く予定である。そこでは幼稚園・保育園を含めた15年間の切れ目ない教育を行っている。視察後は校内のみならず、町と連携して情報発信していきたい。

[委員] 放課後の学習場所を検討するにあたって、静かに勉強したいと思う生徒と、悩みも含めていろいろと話したい生徒もいる。いずれも準備してほしい。生徒の聞き取りも踏まえて検討してもらいたい。

▶学習場所が遊び場になってはいけない。その点も考慮して今後進めていきたい。

[委員] 町役場に矢掛高校同窓会が発足し、一丸となって協力することが大切であると思っている。町へ要望・提案することは非常に大切なことである。矢掛高校からさまざまな要望・提案が出されているが、できる限り実現させてあげたいし、具現化させるために尽力していく。また、町外の矢掛高校生徒をサポートすることについては、企業版ふるさと納税を適用することができる。

[委員] 矢掛文学賞運営会議あった。そこでは、矢掛に特化した記録や文があればよいという意見が出された。聞き書き等で、若い人がシニアと交流することもできる。この件は2月までには決定する。

[委員] 生徒のニーズが多様化している。地域貢献活動は小学校でも行われているので、中学校でも実施し、中学生をあこがれの存在とさせたい。来年度は商品開発も行う予定である。

ロコミが大切である。学校は楽しくないといけない。学校ではほとんどが授業で、その中で対話的な学びを実践していくために、家庭で事前学習を身に付けさせたい。

高校入試が人の奪い合いにはなってほしくない。それぞれの高校が魅力化し、地元進学者が地域の高校を支える。そのような形が理想的である。

[委員] 教員のやりがい感が大切である。校長と教員の双方向の望ましい関係を築いていくことである。また、地元で自分の好きな場所があることに気づかせると、将来は地元に戻ってくる人材が育成される可能性が高い。これも高校教育の領域である。

[委員] 「自分たちの税金をつかって矢掛高校をサポートする？」「RMの成果はなに？」と、町民から疑問の声が聞こえてくることがある。それを踏まえた上で活動していくことが必要である。矢掛町の教育目標などは、言葉で書いているだけではわかりにくく、浸透もしにくい。視覚に訴えるなど工夫が必要である。

## (5) その他

### ・本校生徒会より

※本校生徒会から、「校則」や「やかげ学」について大人の意見を聞いてみたい、との要望があり、生徒会生徒5名が本会議に参加し、御意見を伺った。

[委員] 就職試験の面接の時だけに整えるだけという考えは、改める必要があると思う。

校則という大枠は集団生活にとって必要である。

[委員] 相手を不快にさせない、自分が不快にならないためにあるのが校則である。素の自分を大切にすることが重要である。守れる校則を自分たちで作っていけばよい。何でもよい、はあり得ない。あいまいな表現だからこそ、議論していけばよい。

進学・就職面接時に、化粧やリップをしている生徒はいけない。

[委員] もっと多様性を認めるべきと考える。

[委員] 人事関係の仕事をしてきたが、採用時に、ルールが守れない、挨拶ができない、対応できないなど、それらはすべて不採用としてきた。

[委員] この場のように、意見を聴く会が設けられたのは、生徒会のみんなを信頼している証である。長期のスパンで考えることが必要である。

[委員] さらに根気強く議論し津続けてもらいたい。

[委員] やかげ学実習担当の小学校の先生方から、矢掛高校の生徒に「〇〇をさせたい」という意見を聞いたことがある。実習生徒・高校・実習先で話をして、より自発的な活動になればよい。

### 3 連絡

(1) 第3回学校運営協議会の日程について  
2月16日(木) 午後に予定している。

(2) その他

[委員] 12月にトークフォークダンスを実施予定である。積極的な参加をお願いしたい。

### 4 閉会

#### ・副会長挨拶

高校生が大人の場で話すことは貴重な経験である。多様な意見を頂いたが、長期のスパンで考えること、その考えたことを共有し、PDCA サイクルを回して修正し、今後取り組んでいただきたい。